

森林やまがた

No.169

2017. 4



山形県森林協会は、『美しい森林づくり推進国民運動』を推進しています。



目次

平成29年度山形県森林・林業・木材産業施策の展開方向…2
 橋本健一氏が全国山林苗畑品評会で農林水産大臣賞を受賞…4
 再生林に推進に向けた苗木の安定生産について…4
 平成29年度『県産認証材「やまがたの木」普及・利用促進事業』のお知らせ……………5
 平成29年山火事予防について……………5
 やまがた森林ノミクス推進会議について……………6
 平成29年度山形県みどり豊かな森林環境推進事業について…7
 新たに6企業と「やまがた絆の森協定」を締結しました…8
 村山地域「やまがた森林ノミクス」推進研修会…9
 村山管内の木工作品を常設展示……………9
 みどりのページ
 平成28年度緑化推進事業研修会「緑のふるさとづくりセミナー」を開催しました……………10
 県民の森・源流の森がまもなくオープンします！…11

フォレスト通信……………12
 森林組合長に聴く……………13
 センタートピックス
 山形県版栽培管理マニュアル……………13
 森の人紹介
 渋谷幸隆さん・土岐耕治さん……………14
 「もがみきのこ産地強化」コンソーシアム第2回
 検討会及びきのこ生産に係る技術研修会……………15
 「最上の自然環境教育マスター養成事業」冬の講座について…15
 置賜地域林業振興プロジェクト会議(置賜森林ノミクス推進フォーラム)の開催について…16
 木炭品評会・講演会の開催……………17
 庄内林業研究会発足から10年……………18
 みなさんと歩んで70年……………19
 都市に森を創る®……………19
 人事異動……………20



(表紙写真は、29年3月1日開催の平成28年度山形県治山林道研究発表会の状況と優秀賞を受賞した皆さん)

業・木材産業施策の展開方向

3 「森林を活かす」

県産木材の新たな需要に対応するため、素材生産業者と製材業者など事業者間の連携を推進し、県産木材の安定的な流通体制を構築する。公共施設での県産木材の率先利用と、民間施設の木造化・木質化を推進する。さらに、山菜・きのこ等の特用林産物の生産振興、森林の多様な資源を活用した魅力ある地域づくりを推進する。

(1) 県産木材の加工・流通体制の整備

- ・やまがた森林ノミクス推進事業費（森林認証取得支援事業）：事業者の森林管理認証取得支援
- ・
〃
（県産製材品高度化促進事業）：事業者の製材JAS認定取得に対する支援
- ・やまがたの木利用拡大プロジェクト事業費：県産認証材の制度運用支援、県産木材普及啓発等
- ・次世代林業基盤づくり交付金事業費：木材加工流通施設等整備の支援

(2) 県産木材の率先利用の推進

- ・山形の家づくり支援事業費：県産認証材使用住宅への助成、家づくりネットワークへの支援
- ・次世代林業基盤づくり交付金事業費：木造公共施設や木質バイオマス関連施設等の整備支援
- ・やまがた森林ノミクス推進事業費（公共・民間施設木造化・木質化推進事業）：展示効果の高い民間施設（交通拠点施設等）の木造化・木質化に対する支援

(3) 森林資源等の多様な利活用の推進

- ・やまがた森林ノミクス推進事業費（林工連携推進事業）：林業と他産業の連携体制を構築するための庁内連絡会議の開催、山形県森林資源産業振興協議会（仮称）設置・運営
- ・やまがた森林ノミクス推進事業費（やまがた山菜・きのこ日本一産地化プロジェクトの推進）：ブランド化戦略に基づく生産戦略や流通・コミュニケーション戦略、観光・交流戦略の実施

4 「森林を支える」

地域の森林整備の現場を担う林業技術者、木材乾燥や在来工法の継ぎ手加工などの技術者等の人材育成を推進する。また、県産木材の活用を推進する「しあわせウッド運動」を展開するとともに、県民参加の森林づくり活動を支援し、県民が森林の有する多面的機能及び木材利用の意義について理解と関心を深める木育等の推進により、森林資源を循環利用する県民意識醸成に努める。さらに、森林の保全や森林資源の循環利用に関する研究・普及に取り組み、森林の多面的機能の高度発揮と、適正な森林経営を技術面から支えていく。

(1) 森林・林業・木材産業を担う人材の育成・確保

- ・林業技術向上対策事業費：林業技術者等の育成、森林総合監理士（フォレストラー）の育成等
- ・緑の青年就業準備給付金事業費：県立農林大学校林業経営学科の学生への給付金の給付
- ・やまがた森林ノミクス推進事業費（青年林業士活動推進事業）：青年林業士の認定、活動支援

(2) 森林資源を循環利用する意識醸成や森林(もり)や木に親しむ環境づくりの推進

- ・やまがた森林ノミクス推進事業費（やまがた森林ノミクス推進事業）：フォーラムの開催、森林ノミクスの広報活動、PRグッズの作成、シンボルマーク作成、やまがた森林ノミクス推進会議の運営
- ・やまがた森林ノミクス推進事業費（やまがた木づかい運動推進事業）：県産木材の活用を推進する「しあわせウッド運動」の一環として、幼稚園・保育園への木製品の配備
- ・県民の森管理整備事業（各総合支庁森林整備課）：県内4つの県民の森の維持管理・運営等
- ・みどり豊かな森林環境づくり推進事業費：地域住民や市町村が行う森づくり活動等への支援（みどり自然課）

(3) 森林の保全・利用等に関する研究開発等

- ・試験研究費：森林環境の維持・管理技術の確立、低コストで生産性の高い林業技術の開発等
- ・林木育種事業費：優良種子の安定生産、無花粉スギ・病害虫抵抗性品種等の開発等
- ・林業普及指導事業費：試験研究成果の速やかな現地への普及・指導

《基本的な考え方》

本県の森林・林業等の現状や国の林業の成長産業化等の取組みを踏まえ、平成28年12月に制定された「山形県の豊かな森林資源を活用した地域活性化条例」（通称：やまがた森林ノミクス推進条例）に基づき、平成29年3月に改定した「第2次山形県森林整備長期計画」（H22～H31）の目標達成を目指して施策を着実に展開する。

その際、平成27年10月に策定した「やまがた創生総合戦略」（H27～H31）、平成29年3月に策定された「第3次農林水産業元気再生戦略」（H29～H32）及び「第3次総合発展計画短期アクションプラン」（H29～H32）とも整合を図りながら施策を推進する。

《施策の重点化と展開方向》

やまがた森林ノミクス推進条例に規定している施策を基本として、第2次山形県森林整備長期計画（改定版）に基づき、①「森林を守る」、②「森林を育てる」、③「森林を活かす」、④「森林を支える」の4つの推進方向で、目標達成に向けて各種施策を体系的に展開していく。

1 「森林を守る」

水源かん養や県土の保全に重要な役割を果たしている森林の保全や、荒廃が懸念される人工林の整備、放置された里山林の再生など、森林の保全・管理を徹底し、求められる森林の機能に応じて、公益的機能を高度に発揮できる多様な森林づくりを推進する。さらに、山地災害を防止し、県民の安全・安心を確保するため、治山事業などの公的な森林整備により災害に強い森林づくりを進める。

(1) 森林の公益的機能の維持増進

- ・森林環境緊急保全対策事業費【やまがた緑環境税活用事業】：荒廃のおそれのある森林の整備面積1,020ha

(2) 保安林等の守るべき森林の保全・管理

- ・治山事業費：山地治山総合対策・水源地域等保安林整備・農山漁村地域整備交付金25箇所 等
- ・森林病虫害防除事業費：特別伐倒駆除1,582m²、薬剤散布206ha、樹幹注入90本 等

2 「森林を育てる」

林業の再生に向け、地域の関係者が連携して行う森林経営計画の作成を支援し、地域一体となった森林整備を推進する。そのため、「植える、育てる、収穫する、再造林する」という「森林資源の循環利用」が効率的に進むよう、地域にあった森林施業の体系を構築し、路網などの生産基盤の整備を行う。特に再造林については、循環利用の起点であり公益的機能の持続的発揮のため、森林所有者の負担を減らす新たな仕組みの構築や、再造林を前提とした伐採の普及などにより、再造林率の向上を目指す。

(1) 実効性のある森林計画の策定

- ・森林計画樹立事業費：地域森林計画の樹立・変更、森林資源情報の調査、林地台帳案の作成 等
- ・森林整備地域活動支援事業費：森林経営計画の作成や集約化施業に必要な森林調査 等

(2) 県産木材の安定供給・再造林の推進

- ・森林施業支援事業費：森林整備（植栽・間伐・下刈等）、森林作業道開設支援
- ・やまがた森林ノミクス推進事業費（再造林支援制度推進事業）：再造林推進会議の開催、再造林推進のための基金創設への支援
- ・次世代林業基盤づくり交付金事業費：間伐、林内路網整備、高性能林業機械等の導入等支援
- ・民有林林道整備事業費：林道・林業専用道開設10路線、林道改良2路線
- ・県営林管理経営事業費：「山形県県営林経営計画」に基づく県営林の経営・維持管理 等

橋本健一氏が全国山林苗畑品評会で農林水産大臣賞を受賞

平成27年度全国山林苗畑品評会の裸苗部門で、真室川町で苗木生産を行っている橋本健一氏が農林水産大臣賞を受賞されました。

橋本氏は、昭和38年から家業の苗木生産に従事し、多くの苗木生産者が廃業するなか、計画的に優良苗木の育成に取り組み、コンテナ苗等の新技術の普及等にも取り組まれています。平成15年度からは、山形県山林種苗協同組合の代表理事としても、本県の苗木生産を牽引し、平成28年4月から真室川町の地域おこし協力隊の研修生1名を受け入れ、苗木生産の技術指導、後進の育成にも尽力されています。

また、過去にも平成6年度全国山林苗畑品評会、平成26年度全国育樹活動コンクールにおいて、農林水産



大臣賞を受賞されており、今回の受賞では、苗畑作業での土作り、除草剤散布、根切り、雪害対策、獣害対策において、苗畑の状況についての緻密な記録をし、それを生かした苗畑管理と苗木生産を行っている点が評価されました。

今後も、県内の森林林業の更なる発展のため、苗木生産と後進の育成に取り組んでいただき、トップランナーとして活躍されることを祈念します。

〔県林業振興課〕



再造林の推進に向けた苗木の安定生産について

本県では、大型集成材工場や木質バイオマス発電施設の稼働に伴い、木材需要が増加することから、県内の木材供給量を増加させていくこととしていきます。そのため、今後、皆伐面積が増加すると見込まれており、伐採後に再造林されず放置された造林放棄地が増加し、森林の多面的機能が低下することが危惧されています。

また、林業用苗木の生産には2年から3年かかるため、苗木の生産計画量より需要量が増加した場合、供給が不足し、他県からの移入に頼らざるをえなくなります。逆に需要量が減少した場合は、県外への移出や廃棄による対応が必要となっており、大きな課題となっています。

この課題の解決のためには、数年先の苗木需要量を明確にし、安定的に苗木を生産できるようにしていくことが必要です。

これらのことから、平成29年度から、再造林率向上に向けて、伐採事業者と造林事業者が連携し、再造林の一体的かつ計画的な実行や森林所有者への再造林の働きかけ等を行う体制づくりを進めていくこととして

います。

また、再造林に必要な苗木を安定的に生産するため、去る2月24日に森林管理署をはじめとする需要者と苗木生産者で構成する「山形県林業用種苗需給情報連絡会議」を開催し、苗木の安定生産に向けた需給情報の把握とともに、意見交換を行いました。今後は、需給ギャップの解消に向け、この会議を定期的で開催することとしています。

平成28年度には、苗木生産への新規参入希望があったことから、2月1日に山形県種苗生産事業者講習会を7年ぶりに開催し、6名の方から参加いただきました。

しかし、苗木生産には、多くの技術が必要で、後継者育成に時間がかかります。そこで、森林研究研修センターでは、コンテナ苗の生産技術の講習等を行っており、今後も、技術指導等を継続してまいります。

今後、新規参入者が苗木生産を行い、県内生産者数の増加及び需給のバランスが安定するよう県でも支援してまいります。

〔県林業振興課〕

平成29年度「県産認証材「やまがたの木」普及・利用促進事業」のお知らせ

◆はじめに

県では、県民の皆様や大工・工務店等の県産木材利用意識の向上を図り、住宅建築分野における県産木材の利用拡大を目的として、一定量以上の県産木材を使用して住宅を建築する方に補助金を交付する『県産認証材「やまがたの木」普及・利用促進事業』を実施しています。

◆事業概要

県産木材（やまがた県産木材利用センターが実施する『やまがたの木』認証制度』により産地証明された木材又は認証された合板及び集成材）を使用して住宅を建築する方に補助金を交付します。

◆補助対象

補助金の対象となる住宅は、次の各号のすべてに該当する住宅です。

- ①自ら居住するため、県内に新築する住宅（分譲住宅、中古住宅の購入及びリフォームを除く）。なお、店舗等との併用住宅の場合は、住宅部分のみが対象となります。
- ②住宅部材（延べ床面積1平方メートルあたり0.1立方メートル換

算）の80%以上に県産木材を使用した住宅。なお、県産木材の使用量は構造材に限らず、野地板や造作材も含みます。

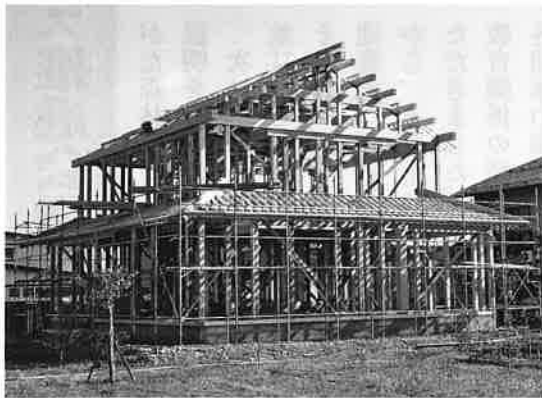
③平成30年3月末日までに、実績報告書を提出できること。

◆補助金の額

住宅1棟あたり定額15万円（県産木材の使用割合が100%以上の場合は、定額20万円）が交付されます。

◆他の補助金との併用について

県が実施する「山形の家づくり利子補給制度」との併用はできません。



県産木材を使用した住宅

〔県林業振興課〕

火の用心 森から聞こえる ありがとう

平成29年山火事予防について

◆貴重な資源を大切に

森林は水資源のかん養や災害の防備機能、生活環境の保全・形成等の公益的機能を有しています。

山火事は、森林の持つ水資源のかん養や災害の防止機能などの公益的機能をたった一度の火で失わせてしまいます。しかし、失われた森林を復元するには、多くの年月と労力を必要とします。

◆山火事は春に集中

平成28年に県内で発生した山火事は、21件、被害面積3・11ヘクタール、件数で前年の約7割に減少しましたが、面積では101パーセントと昨年並みに推移しました。

山火事の発生時期は、3月に2件と融雪直後から発生し、4月に8件と全体の4割を占め、その中でも4月23日から27日までの5日間に7件と集中して発生しました。

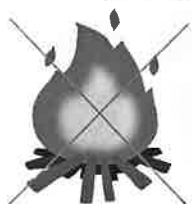
出火原因は、果樹等の剪定枝や枯れ草等を燃やした、たき火等が9件と発生件数の約4割を占める等、各々が気を付ければ防ぐことが出来るのが原因となっています。

特に、野焼きは原則禁止されていますので、ご近所同士での声掛けによる注意喚起を行うとともに、たき火を行う場合は、枯れ草など燃えやすいものの近くでは行わない、強風時・乾燥注意報・火災警報が出ているときは、絶対に行わないなど適切な行動で予防することが重要となります。

春、特に大型連休期間などは、山菜採りが盛んになるとともに、農業等に伴うたき火と空気の乾燥やフエーン現象など、山火事が発生しやすい条件が重なり、1年の中で最も注意が必要となります。

かけがえのない、大切な森林を守るため、山火事予防について御理解と御協力をお願いします。

〔県林業振興課〕



やまがた森林ノミクス推進会議について

◆はじめに

県では、「やまがた森林ノミクス」を宣言し、本県の豊かな森林資源を「森のエネルギー」「森の恵み」として積極的に活用することで産業を振興し、地域の活性化に結びつける取組みを推進しております。昨年12月には、「山形県の豊かな森林資源を活用した地域活性化条例」(通称「やまがた森林ノミクス推進条例」)が施行されました。

◆やまがた森林ノミクス推進会議の設置

この条例に基づき、森林ノミクスを推進する体制として「やまがた森林ノミクス推進会議」(以下「推進会議」という。)を設置しました。推進会議は、やまがた森林ノミクスの推進に係る、情報の共有、意見交換のほか、各機関・団体の相互協力、連携の促進に関することを所掌します。

◆推進会議の開催

平成29年3月29日、山形市内で、第1回目となる推進会議を吉村知事出席のもと開催しました。

知事あいさつに続き、初めにやま

がた森林ノミクスに係る県の施策の説明を行いました。

次に、市長会代表の榎本鶴岡市長並びに町村会代表の高橋最上町長、その他、国有林・林業・木材産業・建築業など各機関・団体の代表の方から、それぞれの取組みを御紹介いただきました。また、観光、工業、教育関係の団体の代表の方からは、各団体の森林や木材との関わりを御紹介いただきました。

今後も、各分野の団体が相互に協力・連携し、森林ノミクスを推進する体制として、定期的に推進会議を開催していきます。

◆再造林一〇〇%宣言

再造林については、山形県森林組合連合会の佐藤代表理事会長から、本県の豊かな森林資源を次世代に伝えるためには再造林の取組みが重要であるとの発言があり、再造林の取組みについて、榎本鶴岡市長並びに高橋最上町長から御意見がありました。再造林について議論が高まるなか、山形県森林協会の細野会長理事から提案があり、吉村知事が「大切な森林の機能を維持するには、県産

木材の率先利用に取組み、緑の循環利用を推進しながら、再造林を行うことが大事である。『伐ったら、植える』とする再造林一〇〇%宣言を行いました。

県では再造林の重要性を各機関や団体と共有し、施策を展開していきます。

◆推進会議の構成員

推進会議の構成員は、次の機関・団体です。

山形森林管理署、山形県市長会、山形県町村会、山形県森林協会、山形県指導林業士会、山形県森林組合連合会、山形県木材産業協同組合、やまがた県産木材利用センター、一般社団法人山形県建築士会、一般社



団法人山形県建築協会、公益社団法人山形県観光物産協会、山形県工業会、公益社団法人山形県私立幼稚園・認定こども園協会、山形県市町村教育委員会協議会教育長会、山形県
〔県林業振興課〕



緑の募金 春募金期間 4月1日⇨5月31日

皆様からのご好意により寄せられた「緑の募金」は、皆様の自主的な「森林づくり・緑づくり」活動のために役立てていくこととしております。

主に、学校や公園で行う身近なところの緑化や、林業まつりなどのイベントの開催、里山での森づくり、川上・川下地域の交流による森づくりなどの森林整備に役立てられています。

ふるさとの緑の推進に、私たちは取り組んでいます。

公益財団法人 **山形県みどり推進機構**

〈事務局〉〒990-2363 山形市大字長谷堂字馬場2265 TEL(023)688-6633



平成29年度山形県みどり豊かな森林環境づくり推進事業について

◆はじめに

県では、平成19年度から平成28年度までの10年間、「やまがた緑環境税」を活用し、「県民みんなで支える森・みどり環境公募事業」と「みどり環境交付金事業」により県民参加の森づくり活動を支援してきました。平成29年度からは、より広がりのある森づくり活動等の実践と、県内全域への活動の定着を進めるため、今までの事業を統合し、新たに「山形県みどり豊かな森林環境づくり推進事業」として県民参加の森づくり活動に対する支援を行っていくこととしました。

このたび、平成29年度の採択事業が決定しましたので、その概要をお知らせします。

◆事業区分

1 地域提案事業

多様な主体の参加による、広がりのある活動を支援する事業です。県民の皆様にご提案いただく「県民提案型」と市町村が取り組む「市町村提案型」があります。なお、

これまで「県民みんなで支える森・みどり環境公募事業」により実施してきたテーマ助成は廃止となりました。

- ① 県民提案型
- ・ 事業実施主体
 - ・ 地域住民やNPO等
 - ・ 交付上限額
 - ・ 1団体あたり50万円

② 市町村提案型

- ・ 事業実施主体
- ・ 市町村
- ・ 交付上限額
- ・ 1市町村あたり500万円

2 市町村里山再生アクションプラン事業

市町村が事業実施主体となり、地域活性化を視野に入れ、地域連携で行う活動を支援する事業です。

◆対象事業項目

支援の対象となる具体的な活動内容は、事業区分のいずれも全て共通で、次のとおりです。

- ① 豊かな森づくり活動
- ② 自然環境保全活動

〈表〉山形県みどり豊かな森林環境づくり交付金事業採択一覧

単位：件

事業区分	事業項目	採択件数	地域別内訳				
			村山	最上	置賜	庄内	
			地域提案事業	県民提案型	豊かな森づくり活動	50	12
	自然環境保全活動	7	2	2	3	0	
	森や自然とのふれあい活動	28	6	4	8	10	
	木に親しむ環境づくり	8	2	2	0	4	
	計	93	22	16	27	28	
	市町村提案型	豊かな森づくり活動	12	3	2	4	3
	自然環境保全活動	4	0	1	1	2	
	森や自然とのふれあい活動	18	10	3	4	1	
	木に親しむ環境づくり	9	3	3	3	0	
	計	43	16	9	12	6	
事業	市町村里山再生アクションプラン	豊かな森づくり活動	29	13	5	3	8
	自然環境保全活動	13	2	5	5	1	
	森や自然とのふれあい活動	37	14	10	8	5	
	木に親しむ環境づくり	33	16	7	8	2	
	計	112	45	27	24	16	
合計		248	83	52	63	50	

◆採択件数

平成29年度は全事業区分を併せ合計250事業のご応募の中から、248事業が採択されました（表参照）。

- ③ 森や自然とのふれあい活動
- ④ 木に親しむ環境づくり

◆おわりに

本県の豊かな森林を、県民共有の財産として健全な状態で未来に引き継ぐためには、県民の皆様のご協力が不可欠です。県では、今後とも皆様の森づくり活動を支援していきま

すので、積極的な参加をお願いいたします。

〔県みどり自然課〕

新たに6企業と「やまがた絆の森協定」を締結しました



県では、企業と森林所有者、県の3者が協定を結び、地域の皆様と森づくり活動を通して交流から地域の活性化を図っていく「やまがた絆の森づくり」を推進しています。平成28年度は、趣旨に賛同いただいた(株)ステイジアンサンプル東北、(有)双伸工業、山形トヨベツト(株)、(株)モンテディオ山形、山形日産自動車(株)、日産プリンス山形販売(株)の6企業と「やまがた絆の森協定」を締結し、春から植栽や下刈り、間伐などの森づくり活動を始めることになりました。6企業との協定締結により、今年度は、38企業・団体、33地区で「やまがた絆の森」の活動が展開されることとなります。県では、これからも「やまがた絆の森づくり」を推進し、地域の活性化につながるよう支援してまいります。

〔県みどり自然課〕

6企業との協定締結内容について

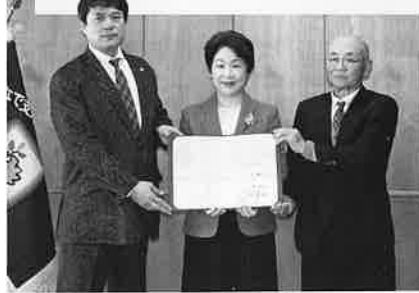
番号	協定締結企業	協定締結森林所有者	協定森林の名称	協定面積及び協定場所	協定日	協定期間	活動の内容
①	(株)ステイジアンサンプル東北	高島町	ステージアンサンプル東北「まほろばの里絆の森」	3.6ha 高島町大字阿久津字味増根	H29.2.7	3年間 (H32.3.31まで)	植栽、下刈り、歩道整備
②	(有)双伸工業	(一社) 関山愛林公益会	R48しあわせ街道学びの森	4.2ha 東根市大字関山字横沢山	H29.2.7	5年間 (H34.3.31まで)	植栽、下刈り、除伐、薪づくり、森林環境学習
③	山形トヨベツト(株)	山形市	ハイブリッド基金の山形トヨベツトの森	0.25ha 山形市みはらしの丘 他	H29.2.8	5年間 (H34.3.31まで)	植栽、下刈り
④	(株)モンテディオ山形	天童市	モンテディオ山形未来の森	2.0ha 天童市大字田麦野	H29.2.17	3年間 (H32.3.31まで)	植栽、下刈り、森林環境学習
⑤	山形日産自動車(株) 日産プリンス山形販売(株)	朝日町	ニッサンの森	4.6ha 朝日町大字白倉	H29.3.27	5年間 (H34.3.31まで)	植栽、下刈り、森林環境学習
⑥	山形日産自動車(株) 日産プリンス山形販売(株)	(公財) 山形県林業公社	ニッサンの森	75.48ha 朝日町大字白倉 他	H29.3.27	4年間 (H33.3.31まで)	間伐

ハイブリッド基金の山形トヨベツトの森



③ ハイブリッド基金の山形トヨベツトの森
左から
鈴木山形トヨベツト(株)代表取締役社長、
吉村知事、佐藤山形市長

ステージアンサンプル東北「まほろばの里絆の森」
R48しあわせ街道学びの森



② R48しあわせ街道学びの森
左から
(有)双伸工業山本代表取締役、吉村知事、
片桐(一社)関山愛林公益会理事長

ステージアンサンプル東北「まほろばの里絆の森」
R48しあわせ街道学びの森



① ステージアンサンプル東北
「まほろばの里絆の森」
左から
上野ステージアンサンプル東北(株)代表取締役、
吉村知事、寒河江高島町長



⑥ ニッサンの森【朝日白倉】
左から
細野(公財)山形県林業公社理事長、吉村知事、
小関山形日産自動車(株)・日産プリンス山形販売(株)
代表取締役



⑤ ニッサンの森【Asahi】
左から
朝日町長、吉村知事、小関山形日産自動車(株)・日産プリンス山形販売(株)代表取締役



④ モンテディオ山形未来の森
左から
森谷(株)モンテディオ山形代表取締役社長、
吉村知事、山本天童市長

村山地域「やまがた森林ノミクス」推進研修会

◆はじめに

平成29年2月14日、村山地域林業振興協議会では「村山地域『やまがた森林ノミクス』推進研修会」を開催しました。

「西山杉」の生産振興と利用拡大を図るため、先進地の素材生産拡大に関する取組み等について学び、地域材の安定供給体制づくりにつなげることを目的として、講演や意見交換を行いましたので紹介します。

◆事例報告

大江町美しい森林づくり協議会事務局の大江町農林課 林事業主査から「大江町における山村活性化交付金事業を活用した森林ノミクス推進の取組み」と題して、天然乾燥材ストックヤード設置に係る基礎調査や



青森県森林組合連合会
秋田事業部長

『大江町型住宅』による西山杉の利用など川上から川下にわたる取組みを報告していただきました。

◆講演「青森県森林組合連合会の

素材取扱いについて」

青森県森林組合連合会 秋田事業部長からは素材取扱量を約9年間で12万㎡から41万㎡と約3倍にまで拡大させた取組みについて講演していただきました。青森県では大型木材加工施設（LVL工場）や木質バイオマス発電所が新たに稼働しており、その素材需要に対して、『直送』方式を採用したコスト削減や原木の安定供給に結び付けた取組みについて参加者からも質問が出て高い関心を示していました。

◆情報提供

林業振興課 堀米木材産業振興主幹から『やまがた森林ノミクス』の一環の「やまがたの木（A材）利用拡大戦略」について情報提供しました。

◆おわりに

村山総合支庁では今後も西山杉及び地域材の利用拡大に関してよりいっそう推進して参りたいと思います。

〔村山総合支庁森林整備課〕

村山管内の木工作品の常設展示



村山総合支庁では、村山地域で製作された県産木材の木工作品の普及を図るため、山形県木材産業協同組合主催の「木工品プロダクトコンペ」出展作品を当支庁食堂前とキッズルームに展示しています。

県知事賞を受賞した家具工房モクの「やまがた木」や杉山木工製作「森のおさら」（県知事賞）、天童木工の圧密加工技術を活かした「ワインde おもてなし」（木産協理事長賞）、カンナ屑から生まれた華やかで木の香る相原木材製作「MOKUKA」（審査員特別賞）等、ほかにも製作者の繊細な工夫や技術が見られる作品が多数あります。

また、当支庁ロビーには「ウッドデザイン賞」を受賞した「Stool+(Wa-Za)+スツール+(和の座)」等も展示しています。

食堂に隣接するキッズルームにも県産木材の積木や木のおもちゃ、子供用のイスを置き、子供たちが木と触れ合っています。当支庁にお越しの際はぜひ管内の高い木工技術を駆使した作品の数々をご覧ください。

〔村山総合支庁森林整備課〕



ワインdeおもてなし



やまがた木'S



Stool+(Wa-Za)
+スツール+(和の座)



MOKUKA(木花)



みどりのページ

平成28年度緑化推進事業研修会
「緑のふるさとづくり」
セミナーを開催しました

山形県みどり推進機構では、県内の緑豊かな地域づくりを推進するため、緑化推進事業を展開しています。緑化推進や森林環境保全、それを通じた市民活動による地域づくりについて普及啓発するとともに、当財団の助成事業について周知を図るため、研修会「緑のふるさとづくりセミナー」を開催しました。

◆期 日

平成29年2月27日(月)

◆場 所

山形県高度技術研究開発センター

◆主 催

(公財) 山形県みどり推進機構

◆後 援

(公財) 山形県林業公社

◆参加者数

80名

◆内 容

第1部 講演
演題 市民ボランティアによる「みどり」環境の保全

講師 山形大学農学部准教授

菊池俊一氏

第2部

緑のふるさとづくり事例

紹介

第3部 平成29年度緑化推進

助成事業ガイダンス

第1部では、山形大学での研究の傍ら、市民活動による森づくりや環境修復を熱心に指導されている、菊池俊一准教授をお招きし、ご講演いただきました。登山道保全やバイカモ生育地の保全など、様々な事例を踏まえながら、「みどり」を守り育てていくには市民による地道な活動が大切であることをお話しいただきました。自然を相手にする「みどりのボランティア」活動を続けていくためのポイントも教えていただき、参加者の皆さんからは大変参考になったとの声が多く聞かれました。



菊池先生による講演の様子

第2部は、当財団の平成28年度助成事業を活用した取組みについての紹介です。

緑化ボランティア活動を支援する「緑化推進事業」からは、山形地区振興会(山形市)による「追分つっじ苑整備事業」について、副会長の武田忠男氏より発表していただきました。同会では、高齢化により花壇として維持できなくなった交通島をつっじ苑として整備しました。雪囲いの失敗談に会場が笑いに包まれる一幕もあり、参加者の皆さんも地道な緑化活動の苦労ややりがいにも共感していたようでした。



つっじ植栽作業の様子

「郷土の名木・古木等保全事業」からは、県指定天然記念物「金峯山の大フジ」(鶴岡市)の樹勢回復につ

いて、担当された樹木医の五十嵐光雄氏より発表していただきました。平成28年度にスタートした本事業は、緑豊かな地域のシンボルとして天然記念物樹木の保全を支援するもので、県内の樹木医に診断・指導をお願いしています。この大フジは、近年樹勢が衰え花付きも悪くなっていたことから、土壌の改良や日照改善のための剪定等の処置が施されました。



スギの大木にもたれるように伸びる大フジ

第3部では、平成29年度助成事業の募集内容について、担当者より説明しました。

開始前と終了後に行った個別相談会でも多くの相談が寄せられ、「緑のふるさとづくり」へ取り組み皆さんの熱意が感じられるセミナーとなりました。



みどりのページ

- ・ミニSL春の大運転会
 - ・西洋シャクナゲのプレゼント
- (先着200名様)

県民の森・源流の森が まもなくオープンします！

山形県みどり推進機構が指定管理者となつている「県民の森」と「源流の森」は、冬期の閉館期間がまもなく終わり、4月29日にオープンを迎えます。

それぞれに、オープンを記念した楽しいイベントを次のとおり開催します。また、オープンから5月7日までの連休期間中は休館日なしで開館しますので、春を迎えた県民の森・源流の森へ、お誘い合わせの上ぜひお越しください。

◆県民の森オープニングイベント

【日時】

平成29年4月29日(土)

午前10時～午後3時

【場所】

山辺町大字畑谷1933142

山形県県民の森

【主な内容】

- ・春の森林案内
- ・青空クラフト教室
- ・丸太切り、昔遊び体験

- ・大曾根餅つき保存会による「ふるまい餅」
- ・山野草などの即売会

◆源流の森オープニングイベント

【日時】

平成29年5月14日(日)

午前11時～午後3時

【場所】

飯豊町大字須郷66913

山形県源流の森

【主な内容】

- ・木のぼりツリーイング体験
 - ・森の恵みルーレット
 - ・楽しい体験教室
 - ・(冒険、陶芸、クラフト)
 - ・炭焼きピザ作り体験
 - ・西洋シャクナゲのプレゼント
- (先着200名様)
- ・森の屋台コーナー



昨年度の県民の森オープニングイベント
('ふるまい餅'の様子)



昨年度の源流の森オープニングイベント
(冒険教室体験の様子)

「緑の募金」にご協力いただいた 企業・団体のみなさま

(H29/2/1～3/15)

青山建設グループ、(株)エイアンドシー、M木工、小国町森林組合、金山町森林組合、北庄内森林組合、(株)後藤工業、JA山形市、渋谷建設(株)、(株)ジャワ商会、出羽庄内森林組合、天童市森林組合、西村山地方森林組合、道の駅むらやま、最上広域森林組合、山形商工会議所、米沢地方森林組合

(敬称略、五十音順)

ご協力ありがとうございました

※全国白川ダム湖畔マラソン大会、白川湖体験巡視も同日開催されます。

新しい緑の募金のピンバッジができました！

平成29年度バージョンの緑の募金ピンバッジは、大人気だった吊りチャーム式のデザインが復活し、緑の羽根と山形県の形、さくらんぼをモチーフにした可愛いデザインになっています。

このピンバッジは、300円以上緑の募金に協力をいただいた方に差し上げていますので、緑の募金へのご協力をよろしくお願いいたします。

なお、詳しくは担当までお問い合わせください。

(公財) 山形県みどり推進機構 担当：内海 TEL 023-688-6633



(公財) 山形県みどり推進機構

「卒業論文計画発表会」及び「合同会社説明会」を終えて

三月に入りいよいよ年度末となりました。今回は、平成二十八年度の締めくくりとなる大きなカリキュラムとなった「卒業論文計画発表会」と「合同会社説明会」について報告いたします。

◆卒業論文計画発表会の開催

三月七日、農林大学校七学科の一学年による卒業論文計画発表会が開催されました。林業経営学科としては、はじめての卒業論文への取り組みとなります。卒業論文は、それぞれの学生が課題を設定し、調査や試験などを通して専門的知識や技術を習得するとともに、調査、試験の方法や結果のまとめ方などの能力を養い、課題解決能力の向上を図ることがねらいです。林業経営学科十五人の学生も、四月からの授業の成果をもとにそれぞれが課題を設定し、約二ヶ月かけて計画を作成しました。

主な課題としては、皆伐施業や民有林における一貫施業を効率的に行うためのシステム検証を行う「高性能林業機械を使用した効果的な作業システムの検証」、航空レーザー測量

データの精度について検証し、現地での活用について考察する「航空レーザー測量による森林資源情報及び地形情報の活用に関する考察」、また、広葉樹林の更新について検討する「林床にササが優占する里山広葉樹林の更新技術の検討」など、幅広い分野に関する計画となりました。

四月には最上管内を中心に試験地を設定し、いよいよ調査、試験に取り組むこととなります。森林・林業に関するテーマでは、結果を得るには少なくとも数年間の継続調査が必要



緊張しながらも立派に発表しました

要なことから、次年度は二期生に課題を引継いでいくこととなります。そのため、一期生は課題の設定理由をより明確にしておく必要があります。発表会当日に向け、学生は自分のテーマに関して十分に検討を進め、当日は堂々とした発表を行いました。

◆充実した合同会社説明会

新設学科としてはじめての就職活動を迎え、林業経営学科の学生も自分の進路の絞り込みを進めています。このような中、企業や法人等が求める人材と学生が希望する職種とのマッチングにより、確実な就職先の選択と離職率の低下を図るため、林業関係団体の協力を得て合同会社説明会を開催しました。本校の緑風館で開催した説明会には、平成三十年に採用計画ある三十三社のうち、森林組合などの林業事業者や木材関係企業など二十四社が参加し、企業と学生がお互いに情報を収集しました。この日は、学生一人あたり四社から説明を受けることができるよう時間配分しましたが、中には就職を希望する企業を決めている学生もいて、採用に向け熱心に自己PRをする姿も見られました。

厚生労働省のデータによると、平成二十五年三月に卒業した学生の平

均離職率は、大学卒業生で三割、高校卒業生で四割を越えており、離職率が依然として高い傾向にあります。今回の取組みが、学生にとっても、また企業にとっても有利な説明会となったことと思います。



事業者の熱心な説明に耳を傾ける

◆学科設置二年目の春を迎えて

いよいよ四月から二期生十人が入学し、林業経営学科も二学年の体制となります。先輩は後輩を指導し、後輩は先輩を見習いながらお互いの知識・技術を磨いていく様子を想像しながら、「学校」という教育機関の重責をあらためて認識し、二年目の学科運営に取り組んでいきます。

〔山形県立農林大学校〕

対談シリーズ 森林組合長に聴く

対談シリーズ「森林組合長に聴く」
第3回目は金山町森林組合代表理事
組合長岸三郎兵衛氏と鈴木健治所長
(当時)との対談です。

◆対談者の紹介

金山町森林組合
代表理事組合長 岸三郎兵衛
金山町在住

三英興業株式会社 代表取締役
(旧)日本林業経営者協会 理事

今回は元参事の杉井範之さんも同席されています。

◆はじめに

所長…県は新庄市に集成材工場を誘致し、これまでの搬出間伐に加え、



皆伐・再造林を進めておりますが、これまでA材として出されていたものが、Bの上の材のように扱われているようにも見えます。特A材とも言える金山スギを取扱われる金山町森林組合長さんに、A材の利用拡大策等についてお話をうかがいたいと思います。

組合長…全国の林業経営者協会の集まりでも、A材の話題が上りますが、なかなか妙案がないのが現実です。

所長…基本はやっぱり出口対策がないと皆さん伐らないですね。今年度より皆伐後の再造林に対し条件により100%補助の支援になります。いよいよB材と一緒にA材も出るようになるとは思います。

◆皆伐しないことが優秀な林業家？

組合長…私が個人的に違和感を覚えていたのは、誰かがそう言っているわけではないのですが、「うちは皆伐していないのだよ」と、自慢風におっしゃる方が少なからずいます。今回のような大規模な工場が立地されると、ある一定量をきちんと提供していく必要があると思います。

所長…県でA材プロジェクトを始めましたけれども、まだまだB材の良いもののレベルです。特A材なら択伐作業の選択肢もあると思います。



組合長…山形県は全国的に見て、いわゆる本当の意味でのA材の産地ではなく量的・面的な問題を考えると並材(一般材)の産地です。よね。中からA材も選べば出てきますが、並材の産地は並材に合わせたコストである程度ロットを集め、B材中心に物を語っていかないと。

◆例えば、大径材でも注文いただければ2週間以内に出できます。

所長…特A材を生産する組合として、A材を売るためにどう対応しているのですか。

組合長…特A材は、特殊材になりつつあります。量は出せませんが、誠実な対応で営業成績9勝6敗、その積重ねが大切だと思います。

センタープロジェクト

山形県版孟宗竹

栽培管理マニュアル

近年、山形県産タケノコの需要が高まり、生産拡大と安定供給をはかるため、栽培技術の確立が求められていました。そこで、栽培先進地で作られたマニュアルを基に、本県の気象条件に適した栽培技術を開発し、雪害対策や荒廃竹林復元対策を取りまとめ、山形県版孟宗竹栽培管理マニュアルを作成しました。



対談全文及びマニュアル

ニユアルは森林研究研修センターのホームページからご覧いただけます。



「森林研究研修センター」

森の人紹介

木製建具の温もりを

伝えて30余年

西川町 渋谷 幸隆さん



西川町で
建具店を営
む渋谷幸隆
さんを紹介
します。

渋谷さんは昭和36年生まれ、父安二さんが建具職人だったため、建具を継ぐのはごく自然の成行きでした。特に手先が器用だったわけではなく、子供の頃から父親の作業場に入ったりして、見様見まねで木を削り、遊んでいたそうです。

働き始めてすぐに、父の職人仲間
の河北町の建具店に3年間修業に入
りました。そこで、和室の欄間の飾
り、仏具、神棚など、あらゆる仕事
に取組んだため、随分と鍛えられた
そうです。
今は、山形市周辺など村山管内の
仕事はほとんどですが、震災から数
年間は、名取市や岩沼市など、宮城
県への復興住宅への出張も多かった
そうです。

木製建具は、木が湿度によって伸

縮するため、納品してからのメンテ
ランスが欠かせません。時には納品
した建具でなく、梁の沈みによる不
具合の対応を求められるなど、苦労
が多いのも事実です。しかし、自分
の感性を製品のデザインに反映でき
る面白さもあるし、納得のいく製品
を納入して施主に喜ばれた時は、職
人冥利に尽きると目を細めます。

1月には村山地域林業振興協議会
の依頼により、西山スギの積木を製
作しました。保育園や幼稚園等児童
施設への貸出し用のこの積木は、園
児にはもちろん、父兄や施設職員に
も大好評になっています。これから
もいろいろな作品を通して、多くの
人に木の温もりを伝え続けていた
きたいと思っています。



渋谷さんが見つけた西山スギの積木

〔村山総合支庁森林整備課〕

森の人紹介

たくさんの人が

集まる山に

鶴岡市 土岐 耕治さん



鶴岡市大
広で山菜の
栽培を中心
に活動され
ている土岐

耕治さんを紹介いたします。

土岐さんは、長年務めた農器具メ
ーカーの退職を機に、以前より興味
のあった山菜の栽培を始めました。
自らの山を整備し、コシアブラやタ
ラノメ、コゴミといった山菜を育て、
出荷を行ってきました。また、シイ
タケ、マイタケ、トビタケといった
きのこの栽培や山野草の栽培も行っ
ています。

現在では、地元地域への山菜の出
荷にとどまらず、首都圏への出荷や
消費者の方にもっと喜んでもらえる
ような販売方法についても試行錯誤
しているとのことでした。

今後は、消費者の要望に答えられ
るよう少量多種の山菜をセットにし
たものの販売や、望んだ時期に販売

できるような出荷体制の整備を思っ
ていきたいとのことでした。

また、土岐さんは出荷だけではな
く、山菜の適した栽培方法や増殖方
法についての研究も行っています。
特にコシアブラの栽培については、
「様々な方法を試し、失敗を重ね、
ようやくうまくいくやり方を見出す
ことができた」と感慨深く話してい
ました。

一方で、数年前から地域の林業グ
ループである「庄内林業研究会」に
入会し、専門である山菜の栽培方法
だけでなく、林業の施業や後継者育
成について、会員の方々と情報交換
や勉強会を行ったり、「庄内森とみど
りのフェスティバル」をはじめとし
た地域イベントにも参加し、意欲的
に普及活動を行っています。

今回の取材の最後に、「これからは
自生の山菜を山に採りに行くのでは
なく、山を管理して自分で育ててい
くべき。きれいな山とそこにある山
菜・きのこなどをきっかけに、たく
さんの人に興味を持ってもらいた
い」と山に対する自らの思いを語っ
てくださいました。

今後も、地域の森林整備や山菜振
興の推進のため、継続して活動され
ることを期待しております。

〔庄内総合支庁森林整備課〕

「もがみきのこ産地強化」コンソーシウム第2回検討会議 及びきのこ生産に係る技術研修会

◆はじめに

きのこの生産振興と品質向上を目的として、平成26年9月に立ち上げた「もがみきのこ産地強化」コンソーシウム」は、今回で6回目の開催になります。

今回は検討会に併せて、培養管理における生産技術上の注意点について、専門家を招いての研修会を開催しました。

◆内容

前回の検討会では、培養センター方式について検討を行ないましたが、メリットが少ないという否定的な意見が多く、きのこ一口に言っても品目毎に課題が異なり、生産者とJAなどでも意見が異なることから、今回は将来の最上地域における産地維持に対する問題点（後継者・施設の更新・生産技術等）を洗い出し、課題の共有化を図ったほか、来年度以降の具体的な検討につながる内容となりました。

また、技術研修会では、大手種菌メーカーである株式会社北研から講師を招いて、「培養管理における生産

技術上の注意点」について講義をいただき、参加者の皆さんで質疑応答や意見交換を行いました。

◆まとめ

今後とも、きのこ生産者及び関係団体の皆様と日ごろ抱えている課題などをこのコンソーシウムを通し情報交換することで、最上地域の生産振興と産地強化を図っていききたいと思います。

〔最上総合支庁森林整備課〕



検討会の模様（最上総合支庁講堂）

やまがた緑環境税活用事業 「最上の自然環境教育マスター養成事業」冬の講座について

最上総合支庁では自然環境教育の指導者養成を目的に、「最上の自然環境教育マスター養成事業」を実施しています。遊学の森は唯一通年開園している県民の森であり、冬ならではの活動をするため、春秋に加えて冬の講座を開催しています。

今年度は冬の講座を2回開催しました。1回目は2月1日に大江町地域おこし協力隊の野木桃子氏から「森と食を奏でる」と題して、山の恵みと地域の物語のお話しの後、カスタネットづくり体験と演奏、森の食体験を行い、32名の参加者がありました。



や積雪の層構造を観察しました。その後、森の仲間たちの白壁洋子氏を講師に「冬を越す樹木の知恵」をテーマに、冬の森

を散策しながら樹木の冬芽の観察を行いました。午後は、工房ストロウの高橋伸一氏から雪国の冬の手仕事である、わら細工を指導していただきました。唐辛子とクロモジの枝をわらで編み、それぞれが個性の光る作品を作っていました。

2回目は、2月25日に開催しました。午前中は、「雪の結晶で楽しむ」をテーマに雪氷環境実験室の小杉健二氏から、雪の科学的性質について講義を受けた後、雪の結晶

受講者からは、「森との関わり方の新しい可能性が沢山あった」「自分の地域でも企画したい」等の感想があり、今後の活動に繋がる講座となりました。



〔最上総合支庁森林整備課〕

置賜地域林業振興プロジェクト会議 (置賜森林ノミクス推進フォーラム)の開催について

平成29年3月2日(木)、南陽市文化会館を会場に「置賜地域林業振興プロジェクト会議(置賜森林ノミクス推進フォーラム)」を開催しました。

このフォーラムは、置賜総合支庁と置賜林業推進協議会の主催で、平成28年3月に策定した「置賜地域の林業振興の展開方向」に基づく取組みの確実な実施によって、地域版森林ノミクスの推進を図ることを目的として初めて開催したもので、約100名の参加がありました。

◆基調講演

長野県根羽村の根羽村森林組合参事 今村豊氏から「根羽村トータル林業」村民の志と林業と上下流連携による夢と希望の山村創造に向けて」と題して、基調講演をしていただきました。全世帯が森林組合員で、村長が森林組合長でもあるという土地柄ということもありますが、森林・林業・木材産業を核としてあらゆる地域活性化の取組みを実施しているという盛り沢山の内容でした。

◆ポスターセッション・ワークショップ

メイン会場の隣接会場で林業振興に関連する取組み事例のポスターセッションと木材利用に関するワークショップを開催しました。ポスターセッションでは、白鷹町産業振興課から「森林境界明確化の取組みについて」、米沢地方森林組合から「ドローンを活用した森林境界明確化及び森林経営計画策定の取組みについて」、置賜総合支庁森林整備課(置賜木需要創出ワーキングチーム)から「広葉樹材の新たな需要創出の取組みについて」発表がありました。

ワークショップとしては、(株)ニューテックシンセイが「もくろック体験」、(株)アイタ工業が「多様な広葉樹による床材体験」、置賜「地材地住」ネットワークが「木工体験」を行いました。

◆取組み事例報告

置賜地域の林業振興の展開方向の具体的な取組みについて、報告を行いました。置賜総合支庁森林整備課から、検討課題ごとに設置した素材



基調講演の状況

生産部会、木材利用部会及び置賜木需要創出ワーキングチームにおける28年度の検討結果について報告しました。

また、特に資源が充実している地域を有する市町のプロジェクトチームによる28年度の取組み事例として、米沢地方森林組合から「南陽市朝日沢地区の取組みについて」、小国町産業振興課から「沼沢地区の取組みについて」、白鷹町産業振興課から「白鷹町森林・林業再生協議会の取組みについて」報告していただきました。

◆おわりに

今年度の取組みの総括として、沢山の内容を盛り込んだフォーラムとなりました。次年度も更に内容が充実したフォーラムを開催できるように努力してまいりたいと考えております。

(置賜総合支庁森林整備課)

木造建築は新たなステージへ。

～大規模・中高層×耐火性能×地域産材活用～

木質耐火部材 COOL WOOD。【1時間耐火・2時間耐火】

国内初・2時間耐火の国土交通大臣認定を取得！
防火地域で14階建てまでの木造ビルが建築可能に

- ① 核となる「構造部」に木材を使用
- ② 中間部の「燃え止まり層」に石こうボードを使用
- ③ 地域産木材が活用できる！



- ◆(受賞歴)
- ◆ギネス世界記録「最大の木造ホール」認定
- ◆ウッドデザイン賞 2015 受賞
- ◆低炭素林 2017 環境大臣賞 自治体部門 金賞 (ほか多数)



シェルターなんようホール(南陽市文化会館)
地域産材を活用した1時間耐火建築

Shelter®

本社/山形市松栄1-5-13
東京支社/東京都港区芝5-13-15 芝三田森ビル
プレカット工場/寒河江市米沢東209-1

TEL.023-647-5100
TEL.03-5418-8800
TEL.0237-86-8529

www.shelter.jp

株式会社シェルター 検索

木炭品評会・木炭講演会の開催

◆木炭品評会の開催

平成29年2月17日(金)、飯豊町中部地区活性化センター(飯豊町大字萩生地内)において、第22回山形県木炭品評会が開催されました。今回は「白炭」14作品「黒炭」3作品、合計17作品が出品されました。

第22回木炭品評会入賞者

賞	部門	受賞者
最優秀賞	山形県知事賞	白炭 柳沢 悟さん(小国町)
優秀賞	全国燃料協会会長賞	黒炭 幸生炭焼伝承塾(寒河江市)
	置賜林業推進協議会長賞	白炭 樋口 勝典さん(飯豊町)
	山形県森林組合連合会長賞	白炭 渡部 岩次さん(飯豊町)
優良賞	山形県木炭文化協議会長賞	白炭 梅津 松男さん(飯豊町)
		白炭 樋口 仁さん(飯豊町)

ここで、木炭の審査方法についてご紹介します。審査項目は形状・品質・調整・包装・正味重量等15項目あります。

始めに、包装状態のままの正味重量や包装状況を確認した後、5本の木炭を無作為に取り出します。形状については、長さや直径等を計測しバラツキ具合を調べます。品質は、樹皮の附着・割れの状態・硬度・精錬度・色沢を審査します。硬度は、硬さの違う18枚の銅片で傷を付けることで測り、硬いほど良い木炭になります。精錬度は、炭にあてた2本の電極で通電状態を複数箇所測定し、全体がまんべんなく炭になっているかを調べます。さらに白炭では、炭どうしを打ち合わせ、出る音を聞いて判定します。金属音が発するのが良い白炭とされています。

以上のよ



入賞者の皆さん

うな審査の結果、知事賞を含む6点の入賞作品が選ばれました。

◆木炭講演会の開催

木炭品評会に引き続き、平成28年度木炭講演会を開催しました。



講演会の状況

講師にノースジャパン素材流通協同組合理事長 鈴木信哉氏をお招きし「新ビジネス」は巨大産業になるのか?(木炭との関連を考える)と題して、薪炭産業の今後の広がりについて講演をしていただき、70名の参加がありました。

参加者だけでなく主催者である私たちにとっても薪炭に関する今後の展開方法などを検討する参考になると考えています。

今後も木炭生産の文化と振興の普及啓発を推進していきたいと思えます。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

森林とのかけ橋をめざす 総合アドバイザー

(一財) 日本森林林業振興会 秋田支部
Japan Forest Foundation AKITA

企業活動を展開しつつ、国から承認された国民参加の森林づくり等活動を支援する法人です

秋田支部 支部長 伊藤 広一
山形出張所

〒010-0001 秋田市中通5-9-49
TEL 018(832)4040 Fax 018(835)6837
〒990-2473 山形市松栄1-5-41
TEL 023(647)8450 Fax 023(674)0109

庄内林業研究会発足から10年

◆はじめに

庄内地域の林業者が中心となり活動を行っている「庄内林業研究会」ですが、平成19年の発足から今年で10年となりました。本会は林業経営の改善と林業技術の向上を目的として発足された会です。発足当初は庄内地域の林業士で構成された会でしたが、現在では、林業士以外の林業に興味のある方も会員となり、会員数は26名になっております。

近年の具体的な活動内容として、まずは会員同士が集まったの情報交換や勉強会を行っており、これにより会員の資質の向上を図っております。また、林業施業や特用林産物の生産方法についての現地検証や、イベントへの出店など、地域林業の振興にも関わっております。

さらに、県内の高校生を対象としたインターンシップの受入れや、一般の方を対象としたきのこの植菌体験を開催しており、これらの活動を通じて林業の就業支援や林業後継者の育成を行っております。

この他にも、総合支庁で実施して

いる研修会への支援や、休日林家支援、都市部に山菜を出荷する計画を立てるなど、多種多様な活動を行っております。その中でも今年度行った活動からインターンシップについて取り上げ、紹介したいと思います。

◆県立鶴岡工業高等学校

インターンシップ

昨年度に引き続き、7月5日から7月7日までの3日間の日程で、県立鶴岡工業高等学校の生徒2名を対象に出羽庄内森林組合と共催でインターンシップが開催されました。庄内林業研究会では、この3日間のうちの1日を使って、林業経営者が森林の管理・経営を行ううえで実際に行っている仕事の紹介をしました。なお、当活動は林野庁補助金の「多様な担い手育成事業」を活用したものとなっております。

最初に、今回の作業場所となった鶴岡市菱津の市有林に集合し、林業に欠かせない鉋や鋸など道具の使い方や、その手入れの方法について、その後は、間伐や枝打ちなど具体的な作業内容の説明を行いました。

続いて、作業体験を行ってもらおう予定でしたが、あいにくの荒天により急遽予定を変更し、室内での座学となりました。座学では、森林のつ働きや地域の森林のことなどを学んだ後、それらについての意見交換を行いました。

その後、庄内林業研究会の会員から林業を始めた経緯や現在の活動状況についての話がありました。この話の中では具体的な林業の話だけでなく、会員の方々の生き方や物事に取組む際の心構えなども聞くことができ、参加した学生からは、「とてもかつこよかった。」という声がありました。



鶴岡工業高等学校インターンシップ

これまでのインターンシップで、ただ林業という仕事に興味を持ってもらうだけでなく、直接就職へと結びついた事例もあり、非常に有意義な活動であると会員一同実感できました。

◆おわりに

今後、これらの活動を継続して行っていく予定であり、森林・林業の未来のために、様々な取組みを行う庄内林業研究会の更なる活躍が期待されます。

〔庄内総合支庁森林整備課〕



勉強会の様子

みなさんと歩んで70年

（一般財団法人）
日本森林林業振興会 秋田支部

日本森林林業振興会は、昭和21年2月財団法人として設立以来、森林の調査、森林・林業資機材の販売、森林・林業に関する出版物の刊行、グリーン・サークル運動、森林愛護についての普及啓発など各種の事業を行い、森林・林業の発展・山村の振興に貢献してきました。

秋田支部は、秋田県と山形県を事業地域として、業務を行っていません。

◆森林・林業に関する普及啓発

- 1 みどりの感謝祭、フォトコンテスト、植樹祭などのイベントの実施・参加
- 2 PR誌などの作成・配布

◆森林の環境整備・施設整備

- 1 遊歩道の草刈り・清掃など
- 2 案内板・看板・ベンチの設置など

◆森林環境教育・森林生物の保護

- 1 グリーン・サークル（首都圏の一般市民を会員とする自然観察会）
- 2 小中学生を対象とした森林教室など
- 3 自然環境保全の関するモニター

ング、外来植物の駆除、ボランティアへの資材提供など

◆森林の育成整備

（地球温暖化の防止）

- 1 森林整備を行うボランティア団体への支援

◆国土保全

- 1 東日本大震災防災林復旧対策
- 2 山火事予防対策

◆木材等の森林資源の活用

- 1 ペレット・薪ストーブ設置の助成
- 2 間伐材を利用した木育製品の開発と配布

◆森林調査事業

立木の調査、森林整備や林業の実施に必要な調査、森林の活用・機能維持に関する調査を行っています

◆森林資材の販売

林道・治山用の資機材、林業用薬剤、林野火災消防用資材、安全用品、標識・看板等の販売

その他の事業として、森林内施設整備・保全、図書出版などを手掛けています

〔山形県森林協会〕

都市に森をつくる

（株式会社）
シェルター

（株）シェルターは、昭和49年12月「超一流の住まいづくり」を目指しシェルターホーム株式会社として設立。以来、KES[®]構法（接合金物工法）、COOLWOOD[®]（木質耐火部材）の開発・実用化により、高品質注文住宅の建築や、大規模木造公共施設への部材供給・建て方などを行っています。

◆基本理念等

- 1 シェルター理念
：何が正しいかを考える
- 2 経営基本方針
：創造・革新・挑戦
- 3 お客様に、私達の建築で感動してもらいたい、幸福（しあわせ）になつていただく。

◆都市に森をつくる

阪神淡路・東日本大震災の激震や巨大津波でも損傷しなかったKES構法の木構造。2時間木質耐火との組み合わせ技術により、災害に強く、街中に二酸化炭素を固定する木造建築の森をつくりまします。

◆木質耐火技術の確立

地域産木材を使用した木造都市づくりにより、まち興しと森林整備

を同時に推進します。耐火技術は大規模・中高層木造建築に不可欠な技術であり、世界初の3時間木質耐火部材も開発中です。木は鉄やコンクリートと全く同じステージに立ち、木造都市づくりの基盤技術を確立します。

◆地域の創生

「KES構法×木質耐火部材×3次元曲線・曲面加工」の最先端技術をオープン化し、設計事務所、森林組合、製材・集材材・プレカット工場や工務店が連携するウインウインビジネスモデル「林業6次産業化・サプライチェーン」をコーディネートしています。〔山形県森林協会〕



シェルター本社社屋
（1998年グッドデザイン賞）

人事異動

平成29年4月1日付けで次のとおり発令になりました。

【農林水産部】▽森林ノミクス推進監(兼)林業振興課長 安達喜代美

【林業振興課】▽森林保全主幹 石川浩▽課長補佐 多田実▽森林ノミクス推進専門員 伊藤奈津子▽森林ノミクス推進専門員 坂本幸雄▽課長補佐(森林整備担当) 佐藤典生▽課長補佐(森林保全担当) 布施昭彦▽課長補佐(木材産業振興担当) 伊藤信▽木材流通対策専門員 山崎優▽予算主査 今野智▽森林計画主査 齋藤浩▽林政企画主査 荒木龍平▽森林ノミクス推進主査(兼)工業戦略技術課林工連携推進主査 後藤藤生▽森林整備主査 松田名由▽森林管理主査 丹野雄一▽主査(森林整備担当) 若木央▽技師(林政企画・森林計画担当) 小野智史

【森林研究研修センター】▽森林研究研修センター所長 古川和史▽副所長(兼)総務課長 熊谷東光▽森林生態保全部長 伊藤聡▽森林資源利用部長 渡部公一▽研究開発専門員 中村人史▽主任主査 布宮孝一▽主任主査 篠原英司

【村山総合支庁森林整備課】▽森林整備課長 佐藤恒治▽森づくり推進室長 鈴木立男▽課長補佐(林政企画担当) 横倉肇▽課長補佐(治山林道担当) 福島弘幸▽森づくり推進室室長補佐(森づくり担当) 齋藤孝浩▽林政主査 矢萩洋平▽主任専門員 櫻井忠孝▽主査(林政企画担当) 鏡美幸▽主任主査(治山林道担当) 保科忠雄▽主任技師(治山林道担当) 越智温子▽森づくり推進室副主任(里山造林担当) 工藤達也▽森づくり推進室技師(里山造林担当) 新野里奈▽技師(治山林道担当) 山岸明寛▽森づくり推進室技師(森づくり担当) 長谷部美季

【最上総合支庁森林整備課】▽林業・木材産業振興室長 梅津一寿▽課長補佐(林政企画担当) 片桐政和▽課長補佐(治山林道担当) 黒田誠一▽林業・木材産業振興室長補佐(普及担当) 森川東太▽森づくり推進室室長補佐(森づくり担当) 井上一彦▽林政主査(兼)主任専門員 林業普及指導員 井上一馬▽治山林道主査 今田洋一▽林業・木材産業振興室木材流通対策主査 齋藤朱美▽林業・木材産業振興室専門員 林業普及指導員(普及担当) 井上浩▽森づくり推進室主査(里山造林担当) 佐藤充▽森づくり推進室主査(森づくり担当)

【庄内総合支庁森林整備課】▽森林整備課長 後藤徹▽森づくり推進室長 渡邊潔▽課長補佐(林政企画担当) 菅原隆志▽課長補佐(普及担当) 樋口裕之▽課長補佐(治山林道担当) 木村義昭▽森づくり推進室室長補佐(森づくり担当) 阿部正己▽森づくり推進室室長補佐(里山造林担当) 福井克▽林産振興主査 奥山貴典▽林政主査 森貴之▽主任専門員 林業普及指導員 高橋伸太郎▽森づくり推進室森づくり主査 加藤浩司▽造林主査 高橋晶▽主査(林政企画担当) 佐藤旬▽主査(治山林道担当) 仁藤敬喜▽森づくり推進室主査(里山造林担当) 佐藤瑞

下山俊治▽技師(治山林道担当) 松木利夫▽技師(治山林道担当) 阿部健太

【置賜総合支庁森林整備課】▽森林整備課長 土方孝宮▽課長補佐(普及担当) 笠井俊哉▽森づくり推進室室長補佐(森づくり担当) 丹野真人▽林政主査 早乙女明▽主任専門員 林業普及指導員 戸田吉彦▽治山林道主査 横山一徳▽主査(治山林道担当) 齊藤和恵▽森づくり推進室主査(里山造林担当) 柳田博郎▽技師(治山林道担当) 野村征宏▽森づくり推進室技師(里山造林担当) 藤田麻矢

【農林大学校】▽教授(林業経営学科) 工藤大▽主任指導員(林業経営学科) 矢萩芳春

●退職者は次のとおりです。
▽森林研究研修センター所長 鈴木健治
▽村山総合支庁森林整備課長 石山新一朗▽最上総合支庁森林整備課木材流通対策主幹 新田喜平▽最上総合支庁森林整備課課長補佐(治山林道担当) 保科忠雄

整備課長 佐藤恒治▽森づくり推進室長 鈴木立男▽課長補佐(林政企画担当) 横倉肇▽課長補佐(治山林道担当) 福島弘幸▽森づくり推進室室長補佐(森づくり担当) 齋藤孝浩▽林政主査 矢萩洋平▽主任専門員 櫻井忠孝▽主査(林政企画担当) 鏡美幸▽主任主査(治山林道担当) 保科忠雄▽主任技師(治山林道担当) 越智温子▽森づくり推進室副主任(里山造林担当) 工藤達也▽森づくり推進室技師(里山造林担当) 新野里奈▽技師(治山林道担当) 山岸明寛▽森づくり推進室技師(森づくり担当) 長谷部美季

【最上総合支庁森林整備課】▽林業・木材産業振興室長 梅津一寿▽課長補佐(林政企画担当) 片桐政和▽課長補佐(治山林道担当) 黒田誠一▽林業・木材産業振興室長補佐(普及担当) 森川東太▽森づくり推進室室長補佐(森づくり担当) 井上一彦▽林政主査(兼)主任専門員 林業普及指導員 井上一馬▽治山林道主査 今田洋一▽林業・木材産業振興室木材流通対策主査 齋藤朱美▽林業・木材産業振興室専門員 林業普及指導員(普及担当) 井上浩▽森づくり推進室主査(里山造林担当) 佐藤充▽森づくり推進室主査(森づくり担当)

【庄内総合支庁森林整備課】▽森林整備課長 後藤徹▽森づくり推進室長 渡邊潔▽課長補佐(林政企画担当) 菅原隆志▽課長補佐(普及担当) 樋口裕之▽課長補佐(治山林道担当) 木村義昭▽森づくり推進室室長補佐(森づくり担当) 阿部正己▽森づくり推進室室長補佐(里山造林担当) 福井克▽林産振興主査 奥山貴典▽林政主査 森貴之▽主任専門員 林業普及指導員 高橋伸太郎▽森づくり推進室森づくり主査 加藤浩司▽造林主査 高橋晶▽主査(林政企画担当) 佐藤旬▽主査(治山林道担当) 仁藤敬喜▽森づくり推進室主査(里山造林担当) 佐藤瑞

下山俊治▽技師(治山林道担当) 松木利夫▽技師(治山林道担当) 阿部健太

【置賜総合支庁森林整備課】▽森林整備課長 土方孝宮▽課長補佐(普及担当) 笠井俊哉▽森づくり推進室室長補佐(森づくり担当) 丹野真人▽林政主査 早乙女明▽主任専門員 林業普及指導員 戸田吉彦▽治山林道主査 横山一徳▽主査(治山林道担当) 齊藤和恵▽森づくり推進室主査(里山造林担当) 柳田博郎▽技師(治山林道担当) 野村征宏▽森づくり推進室技師(里山造林担当) 藤田麻矢

【農林大学校】▽教授(林業経営学科) 工藤大▽主任指導員(林業経営学科) 矢萩芳春

●退職者は次のとおりです。
▽森林研究研修センター所長 鈴木健治
▽村山総合支庁森林整備課長 石山新一朗▽最上総合支庁森林整備課木材流通対策主幹 新田喜平▽最上総合支庁森林整備課課長補佐(治山林道担当) 保科忠雄

下山俊治▽技師(治山林道担当) 松木利夫▽技師(治山林道担当) 阿部健太

【置賜総合支庁森林整備課】▽森林整備課長 土方孝宮▽課長補佐(普及担当) 笠井俊哉▽森づくり推進室室長補佐(森づくり担当) 丹野真人▽林政主査 早乙女明▽主任専門員 林業普及指導員 戸田吉彦▽治山林道主査 横山一徳▽主査(治山林道担当) 齊藤和恵▽森づくり推進室主査(里山造林担当) 柳田博郎▽技師(治山林道担当) 野村征宏▽森づくり推進室技師(里山造林担当) 藤田麻矢

【農林大学校】▽教授(林業経営学科) 工藤大▽主任指導員(林業経営学科) 矢萩芳春

●退職者は次のとおりです。
▽森林研究研修センター所長 鈴木健治
▽村山総合支庁森林整備課長 石山新一朗▽最上総合支庁森林整備課木材流通対策主幹 新田喜平▽最上総合支庁森林整備課課長補佐(治山林道担当) 保科忠雄

下山俊治▽技師(治山林道担当) 松木利夫▽技師(治山林道担当) 阿部健太

【置賜総合支庁森林整備課】▽森林整備課長 土方孝宮▽課長補佐(普及担当) 笠井俊哉▽森づくり推進室室長補佐(森づくり担当) 丹野真人▽林政主査 早乙女明▽主任専門員 林業普及指導員 戸田吉彦▽治山林道主査 横山一徳▽主査(治山林道担当) 齊藤和恵▽森づくり推進室主査(里山造林担当) 柳田博郎▽技師(治山林道担当) 野村征宏▽森づくり推進室技師(里山造林担当) 藤田麻矢

【農林大学校】▽教授(林業経営学科) 工藤大▽主任指導員(林業経営学科) 矢萩芳春

●退職者は次のとおりです。
▽森林研究研修センター所長 鈴木健治
▽村山総合支庁森林整備課長 石山新一朗▽最上総合支庁森林整備課木材流通対策主幹 新田喜平▽最上総合支庁森林整備課課長補佐(治山林道担当) 保科忠雄

下山俊治▽技師(治山林道担当) 松木利夫▽技師(治山林道担当) 阿部健太

【置賜総合支庁森林整備課】▽森林整備課長 土方孝宮▽課長補佐(普及担当) 笠井俊哉▽森づくり推進室室長補佐(森づくり担当) 丹野真人▽林政主査 早乙女明▽主任専門員 林業普及指導員 戸田吉彦▽治山林道主査 横山一徳▽主査(治山林道担当) 齊藤和恵▽森づくり推進室主査(里山造林担当) 柳田博郎▽技師(治山林道担当) 野村征宏▽森づくり推進室技師(里山造林担当) 藤田麻矢

【農林大学校】▽教授(林業経営学科) 工藤大▽主任指導員(林業経営学科) 矢萩芳春

●退職者は次のとおりです。
▽森林研究研修センター所長 鈴木健治
▽村山総合支庁森林整備課長 石山新一朗▽最上総合支庁森林整備課木材流通対策主幹 新田喜平▽最上総合支庁森林整備課課長補佐(治山林道担当) 保科忠雄

下山俊治▽技師(治山林道担当) 松木利夫▽技師(治山林道担当) 阿部健太

【置賜総合支庁森林整備課】▽森林整備課長 土方孝宮▽課長補佐(普及担当) 笠井俊哉▽森づくり推進室室長補佐(森づくり担当) 丹野真人▽林政主査 早乙女明▽主任専門員 林業普及指導員 戸田吉彦▽治山林道主査 横山一徳▽主査(治山林道担当) 齊藤和恵▽森づくり推進室主査(里山造林担当) 柳田博郎▽技師(治山林道担当) 野村征宏▽森づくり推進室技師(里山造林担当) 藤田麻矢

【農林大学校】▽教授(林業経営学科) 工藤大▽主任指導員(林業経営学科) 矢萩芳春

穂▽主任技師(治山林道担当) 岡草多▽技師(治山林道担当) 幸田光▽森づくり推進室技師(森づくり担当) 瀧澤逸

【みどり自然課】▽みどり自然課長(兼)観光立県推進課観光地域づくり主幹 佐々木紀子▽みどり県民活動推進主幹 鈴木良幸▽課長補佐(環境影響評価・温泉保全担当) 小畑義一▽課長補佐(みどり県民活動推進担当) 大築和彦▽みどり県民活動推進主査 伊藤志津▽主査(みどり県民活動推進担当) 深瀬雅和

【砂防・災害対策課】▽主査 相原亮太郎

【農林大学校】▽教授(林業経営学科) 工藤大▽主任指導員(林業経営学科) 矢萩芳春

●退職者は次のとおりです。
▽森林研究研修センター所長 鈴木健治
▽村山総合支庁森林整備課長 石山新一朗▽最上総合支庁森林整備課木材流通対策主幹 新田喜平▽最上総合支庁森林整備課課長補佐(治山林道担当) 保科忠雄

下山俊治▽技師(治山林道担当) 松木利夫▽技師(治山林道担当) 阿部健太

【置賜総合支庁森林整備課】▽森林整備課長 土方孝宮▽課長補佐(普及担当) 笠井俊哉▽森づくり推進室室長補佐(森づくり担当) 丹野真人▽林政主査 早乙女明▽主任専門員 林業普及指導員 戸田吉彦▽治山林道主査 横山一徳▽主査(治山林道担当) 齊藤和恵▽森づくり推進室主査(里山造林担当) 柳田博郎▽技師(治山林道担当) 野村征宏▽森づくり推進室技師(里山造林担当) 藤田麻矢

【農林大学校】▽教授(林業経営学科) 工藤大▽主任指導員(林業経営学科) 矢萩芳春

●退職者は次のとおりです。
▽森林研究研修センター所長 鈴木健治
▽村山総合支庁森林整備課長 石山新一朗▽最上総合支庁森林整備課木材流通対策主幹 新田喜平▽最上総合支庁森林整備課課長補佐(治山林道担当) 保科忠雄

下山俊治▽技師(治山林道担当) 松木利夫▽技師(治山林道担当) 阿部健太

【置賜総合支庁森林整備課】▽森林整備課長 土方孝宮▽課長補佐(普及担当) 笠井俊哉▽森づくり推進室室長補佐(森づくり担当) 丹野真人▽林政主査 早乙女明▽主任専門員 林業普及指導員 戸田吉彦▽治山林道主査 横山一徳▽主査(治山林道担当) 齊藤和恵▽森づくり推進室主査(里山造林担当) 柳田博郎▽技師(治山林道担当) 野村征宏▽森づくり推進室技師(里山造林担当) 藤田麻矢